

# 高齢者サポートの総合拠点「marc」設立

## 「トータルサポートですべてが安心」

北海道で初めて、民間事業所によるお年寄り向けの総合相談窓口が生まれました。「来扶アシスト倶楽部」のエンディングサポートのほか、住まいに関わる相談や保証人代行、緊急通報など、さまざまな相談を無料でお引き受けする取り組みです。

高齢者あんしん住環境相談センター「marc（マーク）」は、12月15日に設立されました。札幌市内の民間企業6社が共同で取り組むこのサービスには、弊社の株セレモニーきょうどうも参加しています。本格的な少子高齢化が進む中、年配の皆さんの暮らしを総合的にサポートするネットワークが必要なのは自明です。そういう問題意識を共有する仲間たちが集まり、このたびの設立が実現しました。

主なサービスは、6分野に及びます。地域環境や価格帯に配慮して物件探しをお手伝いする「住み替え相談」、専門相談員が住まいの問題点を解決する「住宅改修・改造相談」、あらゆる機会の身元保証に協力する「保証人サポート」、24時間体制の出動員が事故や救急の通報に対応する「見守りサポート」、各種行政サービスの利用を円滑にする「ライフサポート」、そして、「来扶アシスト倶楽部」による「エンディングサポート」です。

エンディングサポートでは、会員の皆さんに従来からご案内している「生前契

約・生前予約」をお引き受けするほか、別項で紹介した「少額短期保険」の手配も承ります。もちろん、お葬式そのもののお手伝いをお任せいただくのは言うまでもありません。一般的なセレモニーから個性的な「家族葬」、小規模な「偲ぶ会」、海に還る「散骨」まで、あらゆるエンディングのご相談に応じます。



2015年には、全世帯の約4割を高齢者の世帯が占めることとなります。そのうち実に半数が、単身もしくは夫婦のみの世帯。最後の瞬間まで安心して過ごすことのできる老後は、これからますます貴重なものになってくるでしょう。普段の暮らしそのもののサポートに始まり、人生のエンディングまでをお手伝いする総合的な試みは、多くの皆さんに歓迎していただけることと思います。

【お問い合わせ】「来扶アシスト倶楽部」事務局 フリーダイヤル 0120・892・506、または 011・892・9999】

**ご遺骨を身近に…「手元供養」**

「遠いお墓には入りたくない…いつまでも家族のそばにいたい…」  
 「大切な人の面影を、いつも身近に感じていたい…」  
 「納骨や散骨をしても、遺骨の一部は自宅に置き保管したい…」

従来の葬法では、実現出来ない様々な思いがあります。私達はその思いに対し、今まで一般的でなかった自宅での供養を散骨などの方法と同様、新しい葬法の一つとしてご提案します。

CARD

# 小さな家族との「お別れ」は…

## 「21世紀、ペットのお葬式事情」

去る11月21日、私たちの小さな家族が旅立ちました。推定5歳、サスケという名の牡猫です。

5年前の秋、ファミリーホール白石の駐車場、初めてサスケに会いました。何かの事故で怪我を負ったらしく、後ろ脚2本を引きずっています。下半身の感覚がないようで、見ていて痛々しいものがあつたのですが、本人（本猫）はそんなハンデも乗り越えて、遅く、ふてぶてしく生きています。

不思議な縁で、サスケは札幌市厚別区の事務所に寝床を得ることになりました。下の処理が自力ではまならないので、おしめを着けての生活です。「おしめ猫」としてご近所に知られるようになるまでに、あまり時間はかかりませんでした。



すでに事務所でも面倒をみていた牝のノラミ（推定7）とも仲良しになり、それどころか親分風さえ吹かせる始末。不自由な肢を引きずり、いつもストロブの前の一番いい場所を占拠するのです。若いくせに寡黙で落ち着きがあり、色白の頼もしい「招き猫」なものでした。ずっと続くかと思われたサスケとの生活にも、終わりはやって来ます。その日の朝、出勤したスタッフが寝床を覗くと、サスケが冷たくなっていました。前夜には元気よく夕飯を食べ、いつもの場所に陣取って目を光らせていたのに。脳梗塞か、心不全か、原因はわかりません。突然のお迎えです。死に顔は、いつもの寝顔と変わりませんでした。

弊社では、ペットの葬儀に関するご相談を受ける機会が増えました。専門業者の協力を得て、実際に葬儀を施行したこともあります。人のお葬式と同様、若干の会員割引も適用させていただきました。移動火葬炉を持っている業者に依頼する場合、一般的な価格のめやすは2〜5万円程度。ご自宅まで遺体を引き取りに行き、火葬後に遺骨を引き渡してくれる業者などもあ

ります。お墓や納骨堂も、札幌を中心に増えました。自治体の動物管理センターは民間よりも安い費用で火葬してくれますが、この場合お骨は敷地内の慰霊碑などに合祀されます。

人間も動物も、命の重さは同じです。アニマルセラピーなどの浸透で、実質的な家族としてのペットが増えました。やはりお別れは必ずやって来ます。お葬式の際に大切なのは、人間同士のお別れと同じく、「どうやって見送るか」という「思い」なのではないでしょうか。お手伝いを引き受ける私たちも、自ずと「心」の問題に思いを馳せてしまいます。

◆ 幸せなことに、サスケはお寺さんのお経に送られて旅立つことができました。移動火葬炉で茶毘に付しています。四十九日が明けたら、どこかに埋葬してあげなくてはなりません。なるべく広々とした所に眠らせることにしましょう。「やっと自由に歩けるな」と言っていたら、寡黙なサスケも返事をしてくれるでしょうか。

自分葬のパイオニア

**株セレモニーきょうどう**

本社 〒004-0022 札幌市厚別区厚別南2丁目12-8

フリーダイヤル **0120-892-506**

セレモニーきょうどう  検索

CARD カード取扱可

